

## 見積業者選定経過書

1 業 務 名	令和 6 年度県内企業の潜在的水素需要等に関する調査事業委託業務
2 応募者数	4 者
3 会議の構成	5 名 座 長 産業労働部産業政策課課長 委 員 環境部ゼロカーボン推進室室長 委 員 産業労働部産業政策課企画幹（企画調整担当） 委 員 産業労働部産業政策課企画担当課長補佐 委 員 産業労働部産業技術課課長補佐兼技術振興係長
4 選定基準	別紙のとおり
5 選定結果 選定された者 評価点集計結果（点数） 評価点集計結果（順位） 評価点集計結果（費用）	日本環境技研株式会社 81.4 点 5 名中 4 名が 1 位とした。また、平均順位は 1.4 で 1 位。 評価順位と費用の整合性がとれている。
6 企画提案を求める具体的内容	県内企業の潜在的な水素需要の調査・分析のためにこれまでの事業実績に基づく知見やネットワークを活用して行うだけに留まらず、仕様書の内容の延長線上にある実証・実装モデルの検討まで含めた分析を講じることとしている。
7 企画提案で評価された点	審査項目中、特に重視し配点の高い項目とした「水素関連機器市場の知見」及び「水素利活用に関する業界構造分析」において最も高い評価を得るとともに、「独自性」においても高い評価を得たことから、会議評価点の合計点が最も高かった。
8 総合的判断	別添「評価基準表」の項目ごとの各構成員の評価点の平均点である「会議評価点」の合計結果が 60 点を超え、かつ最も高い点数を獲得した日本環境技研株式会社を見積業者を選定する。

(別添)

令和6年度県内企業の潜在的水素需要等に関する調査事業 評価基準表

審査項目		審査内容（要求内容）	配点
大項目	小項目		
1 実施体制	的確性	仕様書を踏まえ、明確かつ具体的な提案がなされているか。	5
	配置人員（体制）	運営スタッフの配置や業務管理の体制が、事業の進行管理が適切に行える体制となっているか。	5
	業務実績	類似事業の履行実績から、適切かつ効果的に事業を遂行し、成果をあげることが見込めるか。	5
	実現可能性	提案内容、スケジュール等が妥当で、確実な実施が見込まれるか。	5
	独自性	類似事業の履行実績等を踏まえ、目的に沿ったうえで独自性のある提案がなされているか。	10
2 事業内容	現状認識・基本方針	水素利活用の推進に向けた現状と課題について、特に内陸部における課題についての的確に分析・把握した上で、事業の実施方針が明確となっているか。	5
	水素関連機器市場の知見	水素利活用の分析に当たり、導入可能性のある水素関連機器の市場導入状況等、トレンドを的確に把握し、精緻な分析を行うことについての具体的な提案がなされているか。	15
	水素利活用に関する業界構造分析	水素利活用の推進に当たり、特に製造業の中でもどういった業種、生産工程において水素利活用のポテンシャルが存しているか等、実態に即して具体的な提案がなされているか。	20
	企業ヒアリング実施体制	ポテンシャル調査の結果を踏まえ、関係企業に対して効率的にヒアリングを実施する体制が整備されているか。ヒアリング実施に当たり、質問事項等の組成等を含め、効率的な運用に向けての具体的な提案がなされているか。	10
	カーボン排出量削減に関する分析体制	定量的なカーボン排出量の削減に向けた分析に当たり、具体的な提案がなされているか。	10
3 経済性	費用対効果	見積価格水準及びその積算の考え方は妥当であり、県の予算の範囲内となっているか。	10
合計得点			100

採点方法

各項目について5段階で評価することとし、「普通」を基本として、普通より優れているものは「良」、さほど評価できないものは「可」、また、特別に優れていると判断できるものは「優」、まったく評価できないものは「不可」とする。配点は次のとおり。

- 20点満点の項目 優が20点、良が16点、普通が12点、可が8点、不可が4点
- 15点満点の項目 優が15点、良が12点、普通が9点、可が6点、不可が3点
- 10点満点の項目 優が10点、良が8点、普通が6点、可が4点、不可が2点
- 5点満点の項目 優が5点、良が4点、普通が3点、可が2点、不可が1点